

でん粉の価格調整業務実績について (令和2でん粉年度)

特産調整部、特産業務部

はじめに

当機構では「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」に基づき、コーンスターチ用輸入とうもろこしおよび輸入でん粉から調整金を徴収し、それを財源として国内のでん粉原料用かんしょ生産者やいもでん粉製造事業者に支援を行うことで内外価格差を調整し、国内のでん粉の安定的な供給の確保を図っている。

本稿では、令和2でん粉年度（令和2年10月1日～令和3年9月30日〈以下「2SY」という〉）におけるでん粉の価格調整業務実績について取りまとめたので、報告する。

なお、令和2砂糖年度における砂糖の価格調整業務実績については、本誌2月号において報告する予定である。

1. 調整金徴収業務

(1) 2SYの指標価格等

2SYの指標価格等は表1の通り。

(2) でん粉の需要と供給

令和3年9月に農林水産省が公表した2SYのでん粉の需給見通しは、表2、3の通り（詳細は、『砂糖類・でん粉情報』2021年11月号参照）。

表1 2SYの指標価格等

	30SY	元SY	2SY
でん粉調整基準価格（円/トン）	156,900	161,010	165,970
前年比（円）	+2,000	+4,110	+4,960
指定でん粉等調整率（%）	4.466	4.354	4.173
前年比（ポイント）	▲0.863	▲0.112	▲0.181

注1：各でん粉年度告示番号（平成30年9月28日農林水産省告示2143号）、（令和元年9月30日農林水産省告示946号）、（令和2年9月30日農林水産省告示1846号）

注2：でん粉調整基準価格とは、輸入でん粉等と国内産いもでん粉との価格調整の基準となる額。

注3：指定でん粉等調整率とは、輸入でん粉等の輸入者から徴収する調整金の負担水準を定める率。内外のでん粉のコスト格差に当該率を乗じて、調整金単価を算定。

表2 でん粉の需給見通し

(単位：千トン)

		令和元でん粉年度 (実績)	令和2でん粉年度 (見込み)			令和3でん粉年度 (見通し)			
		計	10～3月	4～9月	計	10～3月	4～9月	計	
需要	糖化製品	1,666	750	875	1,625	815	920	1,736	
	化工でん粉	301	121	152	274	145	156	301	
	その他(製紙用、ビール用、片栗粉など)	495	223	279	503	255	263	518	
	合計	2,462			2,401			2,555	
供給	前年度繰り越し	14				32			39
	国産いもでん粉(生産量)	208	186	—	186	182	—	182	
		かんしょでん粉	28	21	—	21	23	—	23
		ばれいしょでん粉	180	164	—	164	159	—	159
	調整金 徴収 対象	コーンスターチ	2,108	936	1,129	2,065	1,037	1,159	2,196
		輸入でん粉 (糖化製品、化工でん粉用)	138	60	69	129	69	69	138
	輸入でん粉(その他用)	9	5	8	13	8	8	15	
	小麦でん粉	16	8	7	15	8	7	15	
	合計	2,493			2,440			2,585	
	次年度繰り越し	32			39			30	

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注1：でん粉年度とは、10月から翌9月まで。

注2：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

表3 でん粉需給の推移

需要

(単位：千トン)

供給

(単位：千トン)

でん粉 年度	需要								でん粉 年度	供給					
	需要 量計	糖化製品 (異性化糖・ 水あめ等)	化工 でん粉	その他	繊維・製紙・ 段ボール	ビール	畜水産 練製品	その他		供給 量計	かんしょ でん粉	ばれいしょ でん粉	コーン スターチ	輸 入 でん粉	小 麦 でん粉
平成20	2,759	1,828	338	593	175	106	25	287	平成20	2,759	42	235	2,324	139	20
21	2,648	1,712	348	588	195	98	25	270	21	2,648	47	203	2,248	131	20
22	2,804	1,857	329	618	204	92	25	297	22	2,804	51	179	2,412	142	20
23	2,683	1,796	319	569	172	98	16	283	23	2,683	45	168	2,307	145	19
24	2,623	1,803	296	525	161	100	16	248	24	2,623	36	169	2,258	142	18
25	2,637	1,792	312	533	179	99	18	237	25	2,637	39	175	2,266	140	17
26	2,568	1,721	324	523	182	98	17	226	26	2,568	39	186	2,190	136	18
27	2,658	1,754	336	568	190	98	17	263	27	2,658	36	197	2,273	135	17
28	2,653	1,753	337	564	200	96	16	252	28	2,653	37	175	2,271	152	17
29	2,673	1,737	323	614	198	92	15	309	29	2,673	31	178	2,303	144	17
30	2,656	1,772	328	557	207	86	15	250	30	2,656	27	170	2,295	150	17
令和元	2,462	1,666	301	495	184	71	13	227	令和元	2,479	28	180	2,108	148	16
2 (見込み)	2,401	1,625	274	503	182	67	14	240	2 (見込み)	2,408	21	164	2,065	142	15
3 (見通し)	2,555	1,736	301	518	183	69	13	253	3 (見通し)	2,546	23	159	2,196	153	15

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注1：その他の欄のその他は、片栗粉、菓子、麺類、調味料、建材、医薬、飼料などの需要量の計である。

注2：供給数量は、かんしょでん粉およびばれいしょでん粉について、前年度繰越分を加え、次年度繰越分を減じている。

注3：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

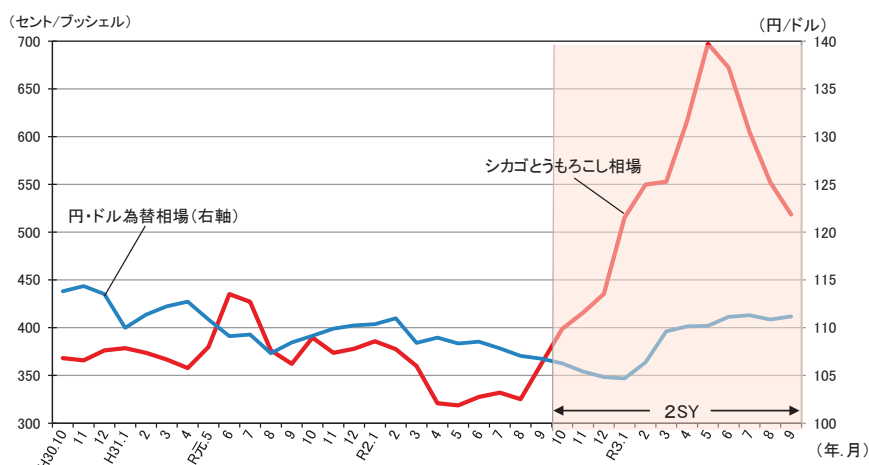
(3) 国際相場などの動き

シカゴ先物相場（期近）は、元SYの令和2年4月から8月は米国産とうもろこしの豊作見込みや新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大に伴う需要の減少懸念などから1ブッシェル当たり300セント台前半で推移したが、2SYに入ると中国の飼料向けを中心とした米国産の輸出の増加や南米産の乾燥気候による生育懸念などを背景に値を上げ続け、3年5月に同700セントの最高値となっ

た。その後、中国産とうもろこしの豊作による飼料向け需要の緩和と米国農務省による次年度のとうもろこしの増産予測により2SY末は同500セント台前半まで値を下げた。

一方、米ドルの為替相場は、2年10月に1ドル106円の水準でスタートし、2SY後半は原油高による景気悪化懸念や米国の長期金利の上昇の影響を受けて円安傾向で推移したため、3年9月は111円台となった（図1）。

図1 米国産とうもろこしのシカゴ先物相場（期近）および為替相場の推移



(4) 指定でん粉等の平均輸入価格等

2SYにおける指定でん粉等の平均輸入価格等は表4の通り。

表4 指定でん粉等の平均輸入価格等

		平均輸入価格 (円/トン)	でん粉 (円/トン)			とうもろこし (円/トン)			とうもろこしシカゴ相場		為替 (円/ドル)
			買入価格	売戻価格	調整金単価	買入価格	売戻価格	調整金単価	(ドル/BU)	(ドル/トン)	
30SY	平成30年 10月～12月	61,090	61,090	65,369	4,279	37,419	40,329	2,910	3.5256	138.80	112.25
	31年 1月～3月	61,890	61,890	66,133	4,243	37,969	40,854	2,885	3.6884	145.21	114.07
	31年 4月～6月	61,280	61,280	65,550	4,270	37,507	40,411	2,904	3.7325	146.94	111.16
	令和元年 7月～9月	61,750	61,750	65,999	4,249	37,724	40,614	2,890	3.8467	151.44	111.20
元SY	元年 10月～12月	62,820	62,820	67,095	4,275	37,786	40,693	2,907	3.9459	155.34	108.36
	2年 1月～3月	62,940	62,940	67,210	4,270	37,858	40,762	2,904	3.7974	149.50	109.57
	2年 4月～6月	62,680	62,680	66,961	4,281	37,776	40,687	2,911	3.7861	149.05	109.81
	2年 7月～9月	58,210	58,210	62,686	4,476	34,645	37,689	3,044	3.2446	127.74	108.82
2SY	2年 10月～12月	58,640	58,640	63,119	4,479	34,534	37,580	3,046	3.3532	132.01	107.32
	3年 1月～3月	64,770	64,770	68,993	4,223	38,793	41,665	2,872	4.0838	160.77	105.68
	3年 4月～6月	74,160	74,160	77,991	3,831	45,672	48,277	2,605	5.3137	209.19	106.44
	3年 7月～9月	82,560	82,560	86,041	3,481	52,191	54,558	2,367	6.4963	255.75	110.34

(5) 売買実績

2SYの売買数量は、輸入でん粉が前年度比7.7%減の13万1000トン、でん粉供給量の大半を占めるコーンスターチ用輸入とうもろこしが同2.8%減の301万2000トン、売買差額は、輸入でん粉が同15.5%減の5億1800万円、コーンスターチ用輸入とうもろこしが同10.9%減の81億2300万円で、合計では同11.2%減の86億4100万円となった(表5)。

なお、売買差額がかなり大きく減少した理由は、東京オリンピック・パラリンピックの開催による需要増加が期待されていたものの、開催直前の令和3年7月に緊急事態宣言が再発令されたこともあり、COVID-19拡大防止のための外出自粛の影響による糖化製品向けの需要減少と情報・広告分野の電子化への移行による製紙・段ボール向けの需要減少が生じたためと推察される。

表5 指定でん粉等の売買実績

SY	輸入でん粉		コーンスターチ用 輸入とうもろこし		売買差額 合計 (百万円)
	売買数量 (千トン)	売買差額 (百万円)	売買数量 (千トン)	売買差額 (百万円)	
30	141	602	3,375	9,779	10,381
元	142	613	3,100	9,120	9,733
2	131	518	3,012	8,123	8,641

2. 交付金交付業務など

(1) でん粉原料用いもおよび国内産いも

でん粉の生産動向

ア. でん粉原料用ばれいしょ・ばれいしょ でん粉

北海道のばれいしょ生産は、近年170~190万トン程度で推移しており、その約4割がでん粉原料

用に仕向けられている。作付面積はやや減少しており、収穫量は生育時の天候に影響されやすい傾向にある。

2SYについて、令和3年9月の農林水産省の需給見通しでは、同年6月後半の低温・日照不足の影響による着いも数の減少により収穫量が前年比8.4%減少したため、ばれいしょでん粉生産量は、同9.6%減の16万1000トンの見込みである(表6)。

表6 でん粉原料用ばれいしょ・ばれいしょでん粉の生産動向(北海道)

SY	作付面積 (千ha)	単収 (kg/10a)	収穫量 (千トン)	うちでん粉 原料用の生産量 (千トン)	でん粉生産量 (千トン)
30	50.8	3,430	1,742	745	169
元	49.6	3,810	1,890	820	178
2(見込み)	48.1	3,600	1,732	725	161

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

イ. でん粉原料用かんしょ・かんしょでん粉

南九州のかんしょ生産は、農家の高齢化による離農を主たる要因として、作付面積および収穫量とも減少傾向にある。

2SYについて、令和3年9月の農林水産省の需給見通しでは、平成30SYからの3年連続のサツマ

イモ基腐病(立枯症状や塊根部が腐敗する症状)が特に鹿児島県内で深刻な病害をもたらしたため、かんしょの収穫量は前年比17.0%減の28万4000トンと大幅に減少し、かんしょでん粉生産量は同25.0%減の2万1000トンと過去最低の見込みである(表7)。

表7 でん粉原料用かんしょ・かんしょでん粉の生産動向（南九州）

SY	作付面積 (千ha)	単収 (kg/10a)	収穫量 (千トン)	うちでん粉 原料用の生産量 (千トン)	でん粉生産量 (千トン)
30	15.7	2,346	369	92	27
元	14.6	2,342	342	93	28
2（見込み）	13.9	2,043	284	72	21

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

（2）交付金の交付状況など

ア. でん粉原料用いも交付金（でん粉原料用かんしょのみ）

収穫期はおおむね9月から11月であり、いもでん粉製造事業者への売渡しを行ったものに交付金を交付している。

2SYについては、サツマイモ基腐病によるでん粉原料用かんしょ生産量の大幅な減少のため交付決定数量は前年比22.6%減の7万2000トン、交付決定金額は同21.8%減の19億3900万円となった（表8）。

表8 でん粉原料用いも（かんしょ）交付金交付決定実績

SY	交付決定数量（千トン）	交付決定金額（百万円）
30	92	2,383
元	93	2,478
2	72	1,939

イ. 国内産いもでん粉交付金

ばれいしょでん粉およびかんしょでん粉の販売は年間を通じて行われ、販売したものに依じて交付金を交付している（表9）。

（ア）ばれいしょでん粉の交付状況

2SYの交付実績は、年度後半に糖化、化工製品向けの販売が増えたため交付決定数量は前年比11.7%増の10万5000トン、交付金額は

同10.7%増の20億9700万円と数量および金額ともかなりの程度増加した。

（イ）かんしょでん粉の交付状況

2SYの交付実績は、交付決定数量は前年同の2万4000トン、交付金額は交付金単価が引上げられたことから前年比1.5%増の8億9900万円となった。

表9 国内産いもでん粉交付金交付決定実績

SY	ばれいしょでん粉		かんしょでん粉	
	交付決定数量 (千トン)	交付金額 (百万円)	交付決定数量 (千トン)	交付金額 (百万円)
30	93	1,644	27	953
元	94	1,895	24	886
2	105	2,097	24	899

(3) 国庫納付金納付業務（でん粉原料用ばれいしょ）

でん粉原料用ばれいしょ生産者への農業の担い手に対する経営安定のための交付金の交付に要する経費の財源に充てるため、2SYにおいては、農林水産大臣からの通知に従い、調整金収入から45億6800万円を国庫に納付する予定である（表10）。前年度より減少した主な要因は、COVID-19の影響で指定でん粉等の売買数量（輸入数量）が減少し調整金収入が減少したことによる。

表10 国庫納付金納付実績の推移

SY	国庫納付金額 (百万円)
30	5,246
元	4,825
2（見込み）	4,568

(4) でん粉の価格調整業務における収支（見込み）

2SYの収入は、前年度に引き続きCOVID-19の拡大による外出自粛の影響により清涼飲料向けの糖化製品の需要などが減少したため、調整金収入は前年比11億円減となる86億円となった。

2SYの支出は、ばれいしょでん粉は交付決定数量が増加したため交付金額は同2億円増の21億円

となり、かんしょでん粉の交付金額は前年同額の9億円となった。でん粉原料用かんしょはサツマイモ基腐病による交付決定数量の減少のため交付決定金額は同5億円減の19億円となり、でん粉原料用ばれいしょへの支援として国の経営所得安定対策の財源として支出する国庫納付金は調整金収入の減少のため同2億5700万円減の46億円と見込んでいる。これらの結果、支出合計は同6億円減の95億円と見込まれる。

以上の結果、2SYにおける調整金収支は、9億円の赤字（前年度は4億円の赤字）が見込まれる（表11）。

なお、2SY末の調整金の期末残高は22億円の見込みであり、年間を通して短期借入金が発生しなかった（図2）。

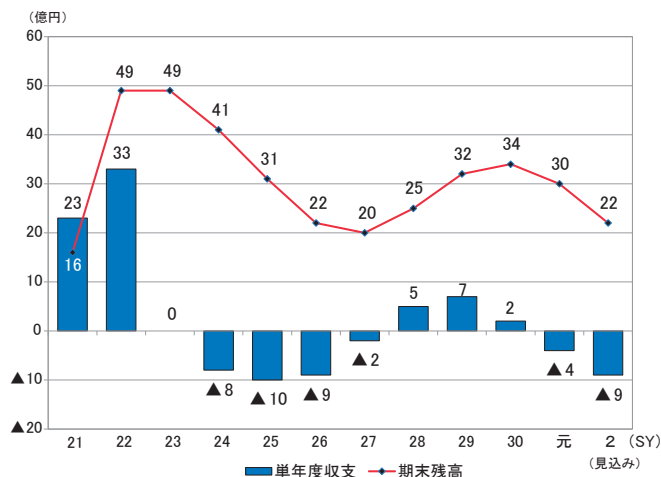
表11 2SYの収支前年比較

(単位：億円)

	30SY	元SY	2SY (見込み)	対元SY 増減
収入	104	97	86	▲11
支出	102	101	95	▲6
ばれいしょでん粉	16	19	21	2
かんしょでん粉	10	9	9	0
ばれいしょ (国庫納付)	52	48	46	▲3
かんしょ	24	25	19	▲5
単年度収支	2	▲4	▲9	▲5

注：端数処理の関係で増減等が一致しない場合がある。

図2 でん粉の調整金収支の推移



注：端数処理の関係で単年度収支と期末残高が一致しない場合がある。